自分探しの旅部

ａ－ラトロトキシン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
自分探しの旅部

【Ｎコード】
Ｎ４８１７Ｑ

【作者名】
ａ－ラトロトキシン

【あらすじ】
のんびりした日常のなかには、一人一人の悩みや思い出があって。そんなお話を、のんびりと綴っていこうと思ってます。

というと若干嘘になりますね。異人怪人なんでもこいの、ハートウォーミングストーリー…？

カードゲームは部活動のうちなのか、いや、そうではない。

「狂乱の鬼神、召かぁぁぁあああん！！これで一気にカタをつける！！」

「ぐっ、せけぇ、そんなん持ってるなんて聞いてねぇ！！」

日本、ある県ある市のある高校。部室棟から、部活動には思えない声が争っている。

自分探しの旅部部室では、たったいま狂乱の鬼神が召還され、天使の宝剣を圧倒せんとしているところだ。

「あー、もう止めだ止めだ、負けましたよー部長。いいさ次は勝つから」

「負け惜しみかね？実に、負けを素直に認めん君らしい言葉と言えようか」

「あぁん？今何つったテメェコラァァ！！！！！！！」

部長と呼ばれた眼鏡の女生徒は、こちらもまた眼鏡の後輩が、実は優しくなかなか手を出せないことを知っている。

知っている上での言葉であるから、彼女の態度も実にたちが悪い。

まーけーおーしーみー、と言ったのだよ、素直じゃないとも言ったかな、黙れアホ眼鏡ぇ！君も眼鏡だろうが！ぎゃーぎゃーぎゃ（以下略

いいトシこいた高校生が言い争っていると、部室の扉がガラと開いた。

「……八ッ木さん…と狐車……うるさかった…こんにちは」

文句と挨拶を同時に兼ね備えた言葉を発しつつ現れたのは、ロングヘアの清楚な女生徒。

掴みあいにまで発展していた八ッ木早矢（やつぎはや）と狐車グロリオサ（こぐるまぐろりおさ）

「あー、織部先輩聞いてくださいよこの人、すげー大人気ないんスから…」

ほう、と織部縫（おりべぬい）はためいきをつく。一体私は、いつまでこの部の面

倒を見ないといけないんだろ…

「んでさぁ！！おりべ先輩なかなか返事しないもんだからオレ、ノート強奪したのよ。そしたらすげー睨まれてー」

「まぁ、織部先輩ちょっと男嫌いだもんね…仕方ないでしょ。ってゆうかそれ以前に、強奪したら駄目じゃん！！」

「だってー、あの人はっきりしねぇからぁー。もうちょいハキハキしてれば殺(や)る気にならんでも…」

「あー駄目駄目！！殺すとか殺すとか、簡単に言わないの！！」

「へいへいうるせぇなぁ調居は…しょうがねえじゃん、オレに殺人衝動があるのはしょうがねえのーー！」

投げやり、もう降参、といったように天を仰ぎ両手を挙げてみせた。

「でも、伏君だって、別に友達とか大事な人を殺したいわけじゃないんでしょ？だったら、克服しようよ。あたしも協力するよ！」

伏歪(ふしいびつ)の方をみやり、ね？と声をかけるのは調居実摘(ととのいみつみ)。

伏は、一瞬ぽかんと呆けた顔になり、すぐにかっと顔を赤くして、反論。

「――――――なーっ、何バカなこと言ってやがんだてめ！！てめーの協力なんざなくてもなぁ、オレは社会で生きてけますよーっ！！」

べ、と舌を出して、部室へまっしぐら。

調居はほうとため息をつく。なんて素直じゃないんだろう。行動の割に中身はまだ子供なんだなぁ。

平和だー、とか、やばい課題してないオー舞がー、間違えたオーマイガーとか色々考えながら、のんびり部室へ向かう。

社会から見りゃ、大した問題でもない日常、でも彼らには重くて大切な時間。

仲間と一緒にのんびり、ときには真剣に、楽しく皆で過ごしていけ

れば、今はまだいいじゃん。
そんなお話。

カードゲームは部活動のうちなのか、いや、そうではない。（後書き）

一回分が長いなーと思います。まだ短い方なはずなんですけどね。
にしても、このキャラたちは動いてくれるだろうか。
期待、期待。

やっぱ学歴社会

「ちわーっ」がらがらぴしゃーーーん、と小気味良い音を立てて、部室に入り込む伏。
「こんにちはー」開いたままの戸から、苦笑いしつつ、ついてきた調居。
二人の登場に、既に部室に来ていた3人は一斉に振り返る。
「おぉお、君たちか。」「ビビんじゃねぇかおい」「…！…」
微妙な3人の態度に、2人は顔を見合わせる。
普通、戸が開いたくらいでビビるか。いや、こいつらは決して、そんな普通な奴らじゃない。
「……あー！何か隠し事でもしてんじゃねぇの！！」
言うが早いか、3人の前へ回り込む伏。あーこの子は子供だなぁ、と調居は内心呆れていた。
「ーーーーーーーあ、ごめん部長、悪いな、これ見てたのかよ…」
気まずそうな伏。何事かと、覗き込む調居の視界に入ってきたのは。
「これ、中間テストの成績表ですk「あーあーあーあー皆揃ったしロシアンルーレットでもしyyy」「「部長が壊れたーーー！！！」」
最初から順番に、調居、八ッ木、狐車&伏。
どうやら、成績表をまわし読み（！？）していたようだった。そして、八ッ木の点数の悪さが露見した、ということだった…。
ちなみに、狐車の点数は上の下、織部は中の上といったところである。

「にしても、狐車先輩て頭いいよねー。私に4分の1、脳みそ頂戴よ」

「…私にも4分の1、貰えないかな…」
「俺にも半分くれ！寄越せ！脳天カチ割るぞコラァ！！」
「ざっけんな、俺の脳が全部無くなるだろーが！」
「……（織部さん）」

基本、彼らの部活動とは、他のそれとは違い、一見真面目さの感じられないものである。
何故なら、彼らの目的は、大きく言えば、部活動にしなくてもいいことだから。
ただ単に、受け入れられないであろう自分の存在を、似たような存在同士、認め合い、問題を解決していくことがしたいだけだ。
普通、そんなことならば、お悩み相談室にでもなんにでも世話になればいい。
だが、彼らはそうもいかない。周囲に受け入れられないのではなく、世間に受け入れられないから。
自分探しの旅部員は基本、人にあらざる存在、異能者、であるから。

「カンニングみたいで普段はしねぇけどさ、やろーと思えば先生がどんな問題出すか、俺分かるもん。
でも、先述のとおり、俺良い奴だからそんなことしないけどな。」
気だるげにそう述べて、自分の学年順位を確認する。
「…えーと…。何、はぁん、25？まぁそこそこかね」
「なんだって、25でそこそこだって言ったかおい狐車」目を血走らせて問い詰める八ッ木。
落ち着いて先輩落ち着いて、どーどー、と声をかける調居と伏。
狐車は、人の思考を読み取ることができる。
だから、彼に嘘は通用しないし、先読みされるから、フェアなしりとりなんかもできない。
しかし、彼自身の人柄が良いからか、基本その異能を使うことはな

かった。
同じ部活の調居でさえ、ほんの数週間前に知った能力だ、ということだし。
「俺ちょっと、コーヒー牛乳買ってきますわ。んじゃ」
掴みかかってくる八ッ木の攻撃をひらりとかわし、部室を出て行く。

「なーんだよ売り切れかよ…。もういいやフルーツ牛乳でいいや…」
半分投げやり状態で、ゴトンと落ちてきたフルーツ牛乳を手に取る。
出しにくいストローに彼が悪戦苦闘している背後、少し低めの木の上から。
「25位なんだって？おめでとう狐車。」
ぴくり、狐車の動きが止まる。この耳障りな声は。あいつだあいつしかいない！
「ああ、ありがとう樫木。お前に言われても何も嬉しくないがな！」
ついに出せなかったストローつきフルーツ牛乳を、木の上の人影目掛けて投げつける。
「フライパンがーーーど！！」すちゃっ、と取り出したフライパンに跳ね返されるフルーツ牛乳。
それはそのまま直線の軌道を辿り、狐車の顔面に「クリーンヒットォォォォ！！」
ガッツポーズの人影に、薄オレンジのジュースを被った狐車。青筋がぴくぴく…。
「なんでお前はフライパンなんか持ってるんだよぉぉぉぉ！！」
「フライパンって食べられないパンなんだよ狐車知ってたぁー！？」
「知ってるわボケ！貴様は俺をなめてんのか！！」
「え…なんで嘗めてるって気づいたの！！」
「いい加減にしやがれ！！」
怒りゲージが満タン寸前の狐車を鼻で笑って、人影は地面に降り立った、ズザザザーと音をたてて…

「お前、ジャンプして降りられないなら素直に言えよ。降りるぐらい手伝ってやるだろ。」
「君に手伝われたら人としての格が下がるのでね。結構だよ」
「うぜぇ！！」
さっきから狐車の怒りを大特価でかっているのは、樫木氷槍（かしぎひやり）。
白髪に紫の目。多少目を引く外見をしている。
実質狐車よりも頭の良い、いわゆる秀才やら天才やらの類である。
短髪なので間違えられることもあるが、樫木は一応女生徒である。

「んで、２５位の狐車くん。ワタシは今回、１４位だったよ。いや実に惜しいね、あとちょっとだ頑張れ！！」
「…お、おう頑張るよ…ありがとうな樫木…ぜんぜん嬉しくないよ…」

凸凹コンビとも言えそうな二人だが、樫木は以前、狐車に借りを作っている。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4817q/

自分探しの旅部

2011年10月8日14時53分発行